広報

びらとり

みんなでつくる、未来へつなぐ。あふれる笑顔、びらとり。

No.740
2024. 2025.
12・1

二柏の丘　ライトアップ

迎春

年頭あいさつ

平取町長　遠藤桂一

新年あけまして
おめでとうございます

皆様には、輝かしい新春を迎えられたことと、心からお歓びを申し上げます。

昨年7月に皆様のご支援を賜り、平取町長として2期目のスタートを切らせていただきました。1期目は町政運営のテーマを「ゆたかに暮らせるまち、平取町」として各種事業を進めてまいりました。2期目はそれに加えて「平取（みんな）につなぐ」というテーマを掲げ、町民それぞれの夢を実現できる地域づくりを引き続き進めていきたいと考えています。

当町の基幹産業である農業、びらとりトマトの今年の販売額は41億円を超えました。40億円を超えるのは4年ぶりのことです。トマトのまち平取町にとっては、本当に喜ばしい結果となりました。昨年の夏も暑い日が続き、北海道も猛暑が恒常化するなかで、生育が心配されるところでしたが、あらためて生産者や関係者の皆様の日頃のご努力の結果に敬意を表させていただきます。トマトをはじめとする農畜産物の供給地として、安定的な生産を維持するため、新規就農者への支援等をはじめとする各種農業振興施策を引き続き進めていく所存です。

少子化が進むなか、生徒の減少が続き、地域連携校として存続が厳しくなっている道立平取高校の生徒確保のため、昨年度からプラットフォームを活用した生徒の全国募集を行っています。今年は、さらに地元からの内部進学率の向上と全国の進学希望者が平取高校を選んでもらえるよう、高校、行政、地域が一体となって、受け入れ態勢の充実など魅力ある高校づくりに努めていきたいと考えています。

昨年6月、日高山脈襟裳十勝国立公園が誕生しました。この国立公園化は、日高山脈は国内でもまれな雄大な自然が残り、この国の貴重な財産であることの証です。

国立公園を有する領域やその周辺で暮らしていることがいかに貴重なことであり、そこから受ける豊富な水資源や気候風土の恩恵などを町民があらためて認識する機会になると思います。その国立公園というブランドをいかに地域の活性化につなげていけるかが重要な視点になると考えます。具体的な取り組みとして、日高山脈の最高峰、日本百名山でもある「ポロシリ」岳の登山ルートの環境整備や情報発信を強化し、プレミアム登山の提供などでより多くの方に訪れていただき、日本でも類を見ない、奥深い自然を体験することで交流人口の増加を図っていきたいと思います。

また、日高山脈の山々の名称のほとんどがアイヌ語由来であり、国立公園を含む多くの領域で、アイヌ語地名や伝説が残されています。国立公園の素晴らしい景観などをアイヌ文化の視点でも見ていただくことにより、この公園の価値や魅力を向上させることとなり、アイヌ文化の発信や理解に繋がっていくことが期待できると考えています。

今年は巳年です。古代からへびは脱皮し、新たな姿に生まれ変わるということから、再生や永遠の象徴とされたと言われています。

巳年の今年が皆様にとって、新たな挑戦や変化に対し、前向きな姿勢でいきいきと健康で暮らし、楽しい年になることを心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

町長　高山　修
同　副議長　四戸　正彦
同　議員　井澤　敏郎
同　議員　中川　嘉久
同　議員　松澤　以久子
同　議員　木村　英彦
同　議員　金谷　満
同　議員　崎廣　秀樹
同　議員　萱野　久彦
同　議員　千葉　良則

代表監査委員　三浦　繁春
農業委員会会長　宮入　司
選挙管理委員会委員長　互野　勝弘
公平委員会委員長　奥村　寛行
民生児童委員協議会会長　和田　与志男
副町長　佐藤　和三
教育長　松田　拓美

«まちの政策»　町議会行政報告

教育行政報告

12月18日㈬に第9回町議会定例会が招集され、行政報告および議案が審議されました。

教育行政報告の概要をお知らせします。

教育長　松田拓美

学校活動の状況

9月中旬から10月にかけて、各小中学校で学習発表会、学校祭が開催されました。各校とも児童生徒と教職員が一つとなり、準備や発表練習を意欲的に取り組み、当日の発表は素晴らしいものとなりました。

9月に町議会総務文教常任委員会、11月に教育委員による学校訪問を実施し、各校長から重点目標や学校の状況等の説明があり、委員から質問等が行われました。

令和6年度 全国学力・学習状況調査

4月に小6・中3を対象として実施された今年度の全国学力・学習状況調査について、平取町の状況は、小・中学校ともに全国よりやや低いものの、ほぼ平均並みで、日高管内では高い状況となりました。

令和7年度 新入学児童数

小学校5校で20名となり、児童に対する必要な支援や最適な学習環境を整えていきます。

部活動の地域移行

現在、北海道教育委員会は、生徒数の減少や中学校教員の働き方改革などを理由に「中学校での部活動を廃止し、地域で活動できる準備を早急に進める」ことを求めています。しかし、移行するためには新しい組織設立や教師に代わる指導者の発掘など課題が山積しています。

今後、部活動拠点校方式の採用や日高町と協力するなどして部活動の地域移行を進めていきます。

振内中学校の状況

1月から7月にかけて、振内地区の全保護者・住民を対象としたアンケートの実施や直接の聞き取りなどを行ってきました。

今回のアンケート等からは、約7割程度の保護者が統合を望んでいるとの回答を得ましたので、教育委員会として「生徒や保護者の不安等を軽減するため、準備期間を2年間として、令和9年4月の統合を目指す」との方向性をまとめ、保護者・地域住民を対象とした説明会を数回開催したところです。

今後は、保育所・学校・自治会単位で意見交換していただき、その結論に応じた対応を教育委員会として行っていきます。

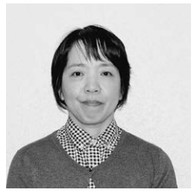
町議会において選任、再任された各委員

教育委員（再任）
和田与志男氏（荷菜）
任期　令和6年10月1日
～令和10年9月30日

人権擁護委員（再任）
福澤早苗氏（振内町）
任期　令和6年10月1日
～令和9年9月30日

公平委員
櫛田洋子氏（貫気別）

公平委員
奥村寛行氏（振内町）



公平委員（再任）
和田ともよ氏（荷菜）

固定資産評価審査委員
伊東健一氏（貫気別）
任期　令和6年8月7日
～令和9年8月6日

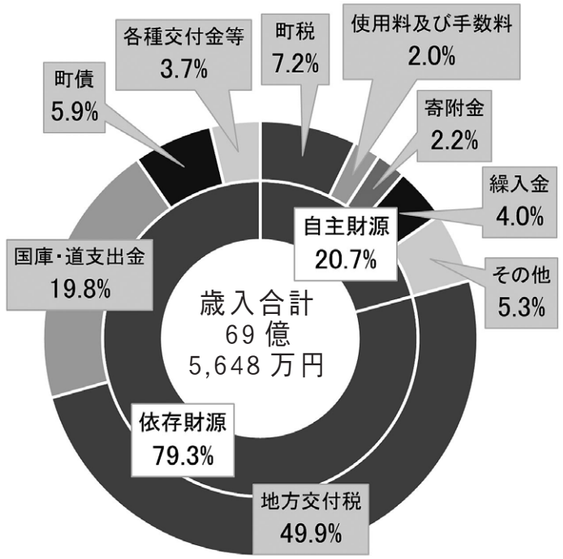
任期　令和6年10月1日～令和10年9月30日

令和５年度 決算報告

令和５年度の一般会計決算および各特別会計決算が、令和６年12月開催の町議会定例会で認定されました。一般会計の決算の概要および財政状況をお知らせします。

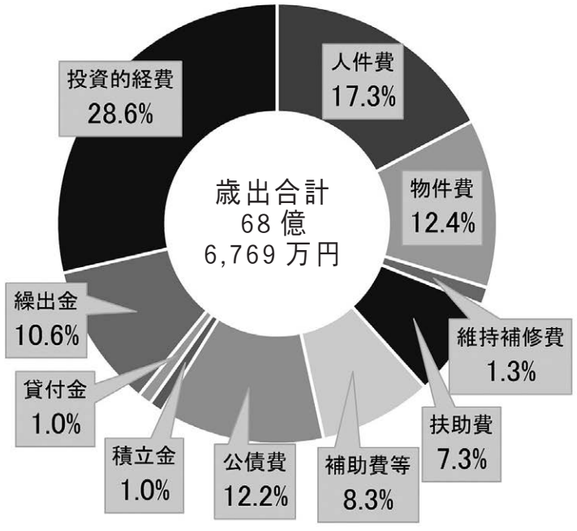
歳入総額は６９億５，６４８万円、歳出総額は６８億６，７６９万円となりました。

将来的に安定した町政運営を進めていくために、今後も総合計画に基づき、効率的な財政運営のもと、地域経済の活性化と町民の生活向上を最優先課題と捉え、未来を見据えた行財政運営に努めます。



歳入の内訳

区 分		決 算 額
自主財源	町税	５億０，３３２万円
	使用料及び手数料	１億３，９９０万円
	寄附金	１億４，９２１万円
	繰入金	２億７，５７３万円
	その他	３億６，５１３万円
	財産収入	６，００７万円
	繰越金	７，８１３万円
	諸収入	２億２，６９３万円
依存財源	地方交付税	３４億７，３０５万円
	国庫・道支出金	１３億７，５６６万円
	町債	４億０，８７０万円
	各種交付金等	２億６，５７８万円



歳出の内訳

区 分	決 算 額
人件費	１１億８，９９７万円
物件費	８億４，９５９万円
維持補修費	８，６７０万円
扶助費	５億０，６９２万円
補助費等	５億７，１５３万円
公債費	８億３，５２９万円
積立金	６，７０１万円
貸付金	６，７１０万円
繰出金	７億２，９７１万円
投資的経費	１９億６，３８７万円
補助事業	１０億３，６４４万円
単独事業	８億１，９４７万円
災害復旧費	１億０，７９７万円

一般会計歳入・歳出の状況等

歳入の決算総額は６９億５，６４８万円で、前年度決算額８０億９，００９万円と比較し、１１億３，３６１万円の減となりました。歳出の決算総額は６８億６，７６９万円で、前年度決算額８０億１，１９６万円と比較し、１１億４，４２７万円の減となりました。

減額となった要因として、令和３年度繰越の畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業などの終了により７億８，１３６万円の減、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金等の減額により１０億５３万円の減、町債がバチラー保育園整備事業および公営住宅建設事業などの終了により２億４，１４１万円の減となったことによります。

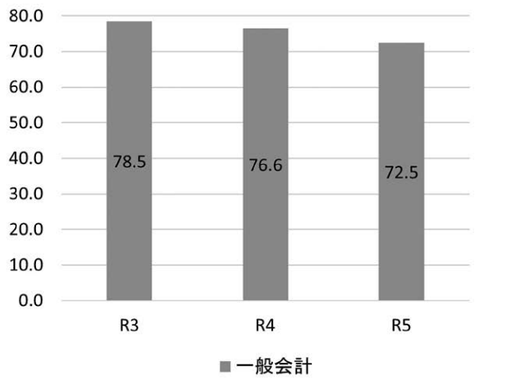
歳入では、町税の占める割合が全体の７．２％（収納率は９９．８％）で、２，５３０万円の減となり、自主財源が少ない状況です。また、地方交付税は、対前年度４，６９９万円、１．３％の減となっていますが、国庫支出金や道支出金、また地方交付税への算入となる町債を活用しながら、各種事業を推進してきました。

歳出では、人件費や扶助費、公債費の占める割合は３６．８％となっています。繰出金を含めこれらの数値が増加すると財政の硬直化が進むことから、今後も歳入の状況を見極めながら歳出の抑制に努めます。

特別会計・企業会計

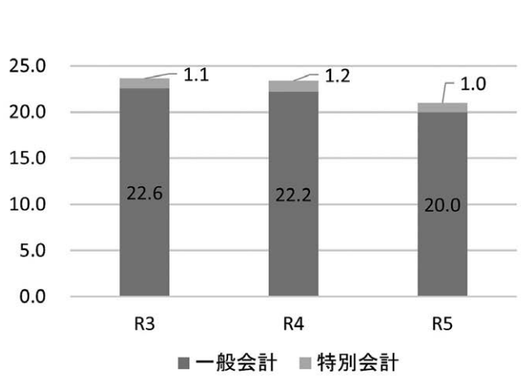
項　目	歳　入	歳　出
国民健康保険特別会計	６億６，１３７万円	６億５，９６６万円
後期高齢者医療特別会計	９，４７２万円	９，４７２万円
介護保険特別会計	５億４，８２７万円	５億４，４０８万円
簡易水道特別会計	３億４，９０６万円	３億２，８０２万円
振内国民健康保険診療所特別会計	２，９７７万円	２，９７７万円
国民健康保険病院特別会計	１０億０，１０９万円	９億６，７７３万円
合　計	２６億８，４３１万円	２６億２，３９８万円

町債残高の推移



町債の残高（町の借金）は、前年度から４億７３５万円減少し、７２億４，４６３万円となります。

基金残高の推移



基金の残高（町の貯金）は、前年度から２億３，５７３万円減少し、２０億９，９５９万円となります。

◆苫小牧信用金庫 企業版ふるさと納税で100万円◆

11月25日㈪、苫小牧信用金庫（理事長 小林一夫 氏）より、100万円のご寄附をいただきました。

このご寄附は「子どもを産み育てやすく、豊かな心を育む環境をつくる事業（平取高校魅力化プロジェクト事業）」に活用させていただきます。

◆令和６年度へき地医療貢献者表彰◆

へき地等の自治体立病院または診療所で、15年以上にわたり地域の医療確保に尽力された医師に贈られる「へき地医療貢献者表彰」（全国自治体病院開設者協議会・全国自治体病院協議会）において、国保病院 谷 信一 院長が受賞され、遠藤町長から伝達されました。

谷 院長は、平成16年10月から外来や入院診療、救急受入れはもとより、健診や予防接種など「地域のかかりつけ医」として町の保健医療福祉の責を担っています。

◆技能者養成貢献事業所表彰◆

技能者を積極的に育成し、技能者の経済的・社会的地位の向上に努めるとともに、産業および地域社会に貢献している事業所に、株式会社米沢電気商会平取営業所（代表取締役 山本 敦子 氏）が選ばれ、11月15日㈮、令和６年度「日高管内技能者の集い」において日高地方技能訓練協会から表彰状が贈られました。

◆高齢者叙勲 受賞◆

昭和30年12月に平取町に奉職、以来37年の永きにわたり町職員として、さらに平成５年４月からは平取町収入役として８年間、地方自治行政に尽力された佐々木 省三 氏（本町）に、12月17日㈫、高見 芳彦 日高振興局長から「瑞宝双光章」が伝達されました。

◆交通安全指導員表彰

交通安全「愛の鈴」贈呈◆

平取町交通安全推進委員会より、伊熊 広光 氏（本町）が、交通安全指導員10年表彰を受賞されました。

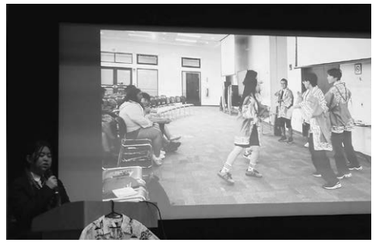
また、令和７年度新入学児童の交通安全を祈願する「愛の鈴」が、平取町商工会女性部（部長 仲山美枝子 氏）より、平取町交通安全推進委員会長である遠藤町長へ贈呈され、入学式に児童に贈られます。

◆ひだか馬の絵コンテスト表彰◆

日高振興局では、地域の馬文化普及啓発のため、平成16年度から「ひだか馬の絵コンテスト」を開催し、今年で21回目となりました。日高管内および東胆振地域の小学校13校から101点の応募があり、平取小学校から２年生２名が入選し、12月９日㈪に表彰状が授与されました。

優秀賞　菊地 りんな さん
入　賞　野田　久翔　さん

11/13 平取高校 青少年国際交流事業報告会



平取町、平取町教育委員会、平取高校が主催する「平取町青少年国際交流事業 ハワイ研修報告会」をふれあいセンターびらとり視聴覚ホールで開催しました。

報告会では、10月１日から10月５日までハワイ・オアフ島の研修に参加した平取高校２年生６名が、それぞれ役割を分担して各訪問先での体験を写真と動画を用いて紹介しました。

今回の研修は３泊５日と短期間でしたが、ハワイアンの高校生や大学生との交流、博物館見学、ハワイ語とフラのワークショップ、ポリネシアンカルチャーセンターでの文化体験など、とても充実した内容となり、現地高校生との交流時には、事前にアイヌ文化学習やアイヌ古式舞踊の練習を重ねた平取高校生が、日本文化やアイヌ文化の紹介を英語で発表し、舞踊の披露も見事に成し遂げ、今後に向けて大きな自信となりました。

報告会の最後には、パネルディスカッション形式で質疑応答も行い、パネラーを務めた高校生たちは、参加者からの質問に対し研修中の思い出や感想などをそれぞれ話していました。

この青少年国際交流事業は、平取高校の入学生全員を対象に来年度以降も開催する予定です。

11/30 びらとり交流フェア～町づくり住民大会～

毎年、平取町自治振興会が主催する町づくり住民大会は、今年度は講演会や鑑賞会ではなく、新規就農者や外国人就労者、地域おこし協力隊員、地域みらい留学生（平取高校）など、平取町への移住者を紹介し、親睦を深める交流会を開催しました。以前に転入された方々や自治会など90名が参加し、会食をしながらテーブルごとに歓談がはずんでいました。インタビュー形式により移住者一人ひとりから、平取町に来たきっかけや仕事、平取町の印象などが語られ、「お互いに頑張りましょう」と新たな交流の輪が広がりました。最後には、特産品が当たる抽選会もあり、平取町で新たな生活をスタートした方々を応援する和やかな交流会となりました。

◆ご寄附・地域貢献活動に感謝します◆

株式会社小林組（代表取締役 小林 史明 氏）より、ペンケオユンベ川（本町）の土砂上げをしていただきました。

株式会社伊藤工業（代表取締役 伊藤 豊 氏）より、平取小学校敷地内の砂利道の整備をしていただきました。

株式会社たんの（本町）より、寄附金をいただきました。ご厚意に感謝いたします。

大切な地域の風景「文化的景観」

北海道平取町〈アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観〉は、
国の重要文化的景観のひとつに選ばれています。

『二風谷コタンに冬の暮らしの知恵をみる』

11月後半以降、二風谷コタン周辺でも雪が降るようになり、徐々に白い冬景色へと装いが変わってきました。北海道の暮らしやアイヌの文化継承を考えるうえで、冬を暮らすための知恵が欠かせません。冬の二風谷コタンを体感し、博物館を見学することで様々に見えてくるものがあります。

北海道で親しまれている料理に「鍋料理」があり、石狩鍋や三平汁、てっぽう汁といった郷土料理が知られています。アイヌの伝統的な料理もその多くが鍋料理で、チセの囲炉裏に吊るした鉄鍋で、ルルやオハウと呼ばれる汁ものやラタシケプ（煮物）、サヨ（かゆ）など様々な料理が作られました。とりわけ魚を具材にしたチェプルル（魚汁）は、日常的によく食べられた料理として平取町に継承されています。インターネット上にもたくさんアイヌ料理のレシピがありますので、ご家庭でも作ってみてはいかがでしょうか。冬の肌寒さの中で体を暖める鍋は格別な美味しさがあります。

チセの囲炉裏で火にあたる暮らしは、世代間でしっかりとコミュニケーションをとる機会にもつながります。冬の暮らしは屋内で薪の火を絶やさないことが大事です。かつてはおじいさんやおばあさんが火の管理を担うことが多く、孫の面倒を見ながらウパシクマ（言い伝え）やユカラ（英雄叙事詩）などを語り聞かせたと言われています。

冬は肉や魚などの保存に向いています。冷蔵・冷凍が容易で、虫がつく心配もほとんどありません。森林に行ってもクマやヘビ、ハチ、ダニなどに出会うこともないことから、比較的安全に狩猟を行うことができる季節です。アイヌ伝承で、冬が男の季節と言われるのは、冬山での狩猟時期と重なることに起因します。

雪に覆われた二風谷コタンを散策しながら、ぜひ北海道に受け継がれた料理、家族の関係、生業などに想いを馳せてみてください。文化的景観の保全は、地域文化の継承に寄与するだけでなく、住民が地元の良さを再認識し、あらためて郷土学習を行っていくためのツール（道具や手段、方法）にもなります。地域らしさを大事にする意識は、今後一層まちづくりのキーワードになっていくと考えられます。

「二風谷イタ」・「二風谷アットゥシ」

地域団体商標に登録 ～鈴木知事表敬訪問～

道内で唯一の伝統的工芸品である「二風谷イタ」が9月5日に、「二風谷アットゥシ」が11月13日に地域団体商標に登録されました。これを受け、二風谷民芸組合 代表理事 貝澤 守 氏と遠藤町長が、12月17日㈫に鈴木 直道 知事を表敬訪問しました。知事室にはマキリが展示されており、アイヌ工芸品が北海道を代表する地域ブランドになっています。

※「二風谷アットゥシ」の「シ」は、アイヌ語表記上、小文字で表しています。

平取町地球温暖化対策実行計画（事務事業編）実績報告

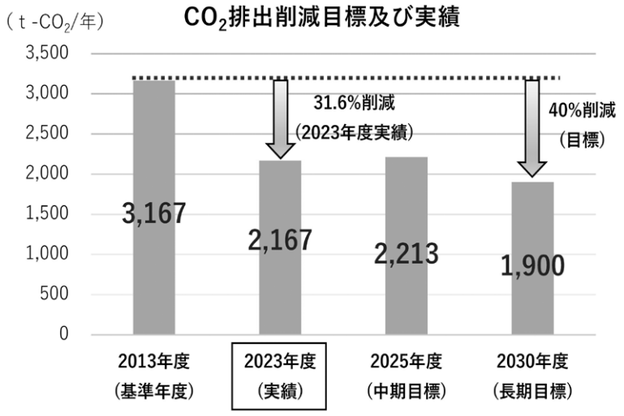
町では、温室効果ガス排出量を削減することを目的とした「平取町地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」を策定しています。

この計画では、町が管理する施設において2013年度を基準に省エネ対策と再生可能エネルギーの導入により、2030年度に温室効果ガスであるCO_2排出量の40％削減を目指しています。

◎2023年度の温室効果ガス（CO_2）の排出状況

2023年度の各施設・車両によるCO_2排出量は2,167ｔで、基準年度の2013年度と比べ31.6％（1,000ｔ）の減少となり、中期目標値の2,213ｔを下回る排出量となりました。

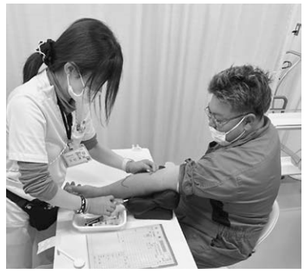
しかし、新たに整備された大型施設や、各施設へのエアコン導入、猛暑の影響などにより、電気使用量は2022年度より130,068ｋＷｈほど増え、全体のCO_2排出量においても、前年度比較で117ｔ増加しています。今後、2030年度のCO_2排出量削減目標を達成するため、より一層の削減に向けた取り組みと、「省エネ」だけでなく「創エネ」の取り組みを推進します。



エネルギー別CO_2排出量内訳

項　目	2013年度（基準年度）	2022年度（令和４年度）	2023年度（令和５年度）	前年度比	（割合）	基準年度比	（割合）
ガソリン	168	48	39	▲9	▲18.8％	▲129	▲76.8％
灯　油	832	646	748	102	15.8%	▲84	▲10.1％
軽　油	3	4	33	29	725.0%	30	1,000.0%
Ａ重油	611	302	263	▲39	▲12.9%	▲348	▲57.0％
ＬＰＧ	42	35	36	1	2.9％	▲6	▲14.3％
電　気	1,511	1,015	1,048	33	3.3%	▲463	▲30.6％
合　計	3,167	2,050	2,167	117	5.7%	▲1,000	▲31.6%

令和６年度 電源立地地域対策交付金事業報告



二風谷発電所・岩知志発電所・奥新冠発電所の影響緩和のために、電源立地地域対策交付金が交付されています。

今年度は、国民健康保険病院の医療体制の維持、確保が円滑に図られるよう、病院事業費へ電源立地地域対策交付金５５１万４千円を充当しました。

今後も町民の安心で安全な医療の提供が保てるよう病院事業費への充当など、有用な財源として効果的な活用をしていきます。

各教科の全国・全道比は、町内小・中学校とも やや低い状況か、ほぼ同様の結果となりました

～令和６年度　全国学力・学習状況調査結果から～

今年４月18日、文部科学省は「全国学力・学習状況調査」を実施し、全国の小学校６年生と中学校３年生の全児童・生徒を対象に、国語、算数（小）・数学（中）の教科と、質問紙において様々な視点からの学習状況の傾向について調査を行いました。調査の特徴としては、学習指導要領で育成をめざす、知識および技能や思考力・判断力・表現力等を問う問題が出題されました。北海道教育委員会では調査結果を分析・考察し、11月初旬に公表しました。この調査結果を基にした平取町の児童・生徒の平均正答率の概要は、下表のとおりです。

全国・全道との平均正答率の比較

比較数値　％ ＼ 全国 / 全道	《小学校６年生》全国平均正答率からみた平取町平均正答率との比較	《小学校６年生》全道平均正答率からみた平取町平均正答率との比較	《中学校３年生》全国平均正答率からみた平取町平均正答率との比較	《中学校３年生》全道平均正答率からみた平取町平均正答率との比較
相当高い　＋７以上				
高い　＋５～＋７				
やや高い　＋３～＋５				
ほぼ同様上位　＋１～＋３				
ほぼ同様　－１～＋１		算　数		国　語
ほぼ同様下位　－３～－１	算　数	国　語	国　語	数　学
やや低い　－５～－３	国　語		数　学	
低い　－７～－５				
相当低い　－７以下				

□領域別にみると、小学校の国語では昨年度下回った「情報の扱い方」が全国より高い数値となりました。また、小学校の算数では、「図形」の分野が全国以上となっています。全国では、36.5％にとどまった「直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く」設問では51.4％の正答率がありました。

□中学校の国語では、「読むこと」、「我が国の言語文化に関する事項」、数学では、「データの活用」について全国より高い数値となっています。

■小学校の国語では、「話すこと・聞くこと」、特に、「我が国の言語文化に関する事項」について課題があります。算数の領域については、「データの活用」、「変化と関係」について課題があります。

■中学校の国語では、「話すこと・聞くこと」、数学では、「数と式」、「関数」の分野について課題があります。

■目的や意図に応じて自分の考えを伝える力を育むために、思考する活動を取り入れた授業の工夫や、効果的に発表するなどの学習体験を積み重ねることが大切です。

■本町で取り組む「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業改善の推進を引き続き行い、ＩＣＴ事業を効果的に活用しながら、「考える」授業を実践していく必要があります。

平取町としての学力向上策（各学校での主な取組み例）

◆少人数指導による個に応じた指導の充実：TT（ティームティーチング）指導や習熟度別指導の充実
◆標準学力テスト実施（全国学調と同日に小６、中３以外）：児童生徒の実態把握による指導の充実
◆放課後子ども教室や休業中の学習サポート事業　◆びらとり義経塾（通年開設）
◆チャレンジテストの効果的な利用　◆朝読書（全校読書）、読み聞かせの実施
◆各種検定事業参加（漢字検定・英語検定）：学習意欲の向上
◆家庭学習時間の設定　学年×10分＋10分　家庭学習強化週間の設定、家庭学習の手引の効果的な活用
◆町指定教育推進事業・公開研究会による「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業改善の推進
◆指導方法の工夫改善　課題設定・まとめ・振り返りの時間の設定、ノート指導
◆ＩＣＴ活用の促進・・・一人一台端末による「個別最適な学び」の充実
◆各種研修への積極参加による授業改善の推進

教育委員会からのお知らせ

『全国学力・学習状況調査　全国の結果の概要から』

今年からオンラインで行った質問紙調査では、課題解決学習を積極的にしていて、発表場面で週３回以上ＩＣＴを活用している児童・生徒の方が、そうでない児童・生徒よりも教科の平均正答率が高かったという結果が出ています。また、算数・数学では、知識の習得を問う問題で課題が見られています。

令和６年度 全国学力・学習状況調査・質問紙における平取町の結果から

学力調査に合わせて、児童・生徒質問紙調査も実施されました。小学校67、中学校69の質問項目がありましたが、その中からいくつかについて平取町の状況をお知らせします。

◇朝食を毎日食べている・・全国と比較し、小学校2.3％、中学校は5.8％低い。全く食べていない児童・生徒も小学校で1.0％、中学校で2.0％多い。
◇自分にはよいところがあるか・・自己肯定感については、全国と比較し、小・中ともやや低い傾向。
◇自分の夢や目標をもっている子どもは、全国と比較して高い数値であり、人が困っているときは進んで助けていると答えた児童・生徒が多かった。
◇ＩＣＴの活用については、意欲的である子どもが多く、そのことが、学習に好影響を与えている場合が多い状況である。
◇「友だち関係に満足しているかどうか」という設問では、小学校は全国数値とほぼ同率、中学校については7.2％高かった。
◇「学校に行くのは楽しいと思うか」という設問については、肯定的な回答が小学校で78.4％、中学校が80.0％で、全国と比較して小学校は6.4％、中学校は3.8％それぞれ低かったが、昨年度と比較すると小学校は11.7％、中学校は19.3％上昇した。
◇「地域をよくするために何かしてみたいと思うか」という設問では、肯定的な解答が小学校で86.4％、中学校が73.3％で、全国と比べて小学校は2.9％高く、中学校は2.8％低かった。
◇「国語の勉強が好きか」という設問では、肯定的な回答が小学校で51.3％、中学校が77.8％で、全国と比較して小学校が10.7％低く、中学校が13.5％高かった。国語の教科が好きな子どもの割合は、小学校が低い傾向である。それに対し、「国語の勉強が大切だと思うか」という設問では、９割以上の児童・生徒が肯定的な回答をしており、全国数値より高くなっている。
◇「算数・数学」の勉強が好きで、大切だと思っている児童・生徒は小・中とも9割を超えており、全国平均とほぼ同数値である。
◇「理科の勉強は好きか」という設問では、肯定的な回答が小学校では86.5％、中学校では66.7％であり、全国と比較して小学校は2.9％高く、中学校は1.6％低かった。全体としては、理科の勉強が好きな子どもが多く、観察や実験に対する意欲が高い状況である。
◇「英語の勉強が好きか」という小学校への設問では、肯定的な回答が72.9％で、全国より3.6％高かった。内容理解についても、分かっていると回答した児童は、全国より5.5％高かった。
◇中学校の英語の授業については、表現や発表したりする活動に取り組んでいたかどうかについての設問があり、概ね取り組んでいたという状況である。

★地域で子どもを育てる★

◉平取町では、令和６年度の教育行政執行方針の中で、「子ども達一人ひとりが夢と希望を持つことのできる学校教育の充実」と「活力あるまちづくりを進めるための人材育成」を方針の大きなテーマとして示しています。

生きる力を育む学校教育を推進するために、子ども達の発達段階に応じた「知識・技能の習得」、「思考力、判断力、表現力の育成」「学びに向かう力、人間性等」を三つの柱とし、各学校では様々な工夫をして日々の教育活動に取り組んでいるところです。

毎年実施されている全国学力・学習状況調査において、各教科の点数だけではなく、質問紙の回答から見えてくる児童・生徒の状況を把握し、分析したうえで、各学校が研修等を通して日常の授業実践につなげる努力を重ねています。

子どもが生き生きと生活し、望ましい人間形成を積み上げていくためには、学校だけではなく、家庭や地域の力がとても大切です。学校行事や地域の行事等で子どもたちの姿をご覧いただき、様々な視点から支援をしていただいたり、見守っていただくことが、地域で子どもを育てることにつながります。

教育委員会からのお知らせ

“笑い”で健康
第44回平取町女性の集い

～笑いは体内マラソン、
内臓のマッサージ・笑顔に勝る化粧なし・心のビタミン剤～
講師　日本笑いヨガ協会　千葉 養子 氏

町内の女性が一同に会し、生き生きと生活するために意識を高め、女性同志の交流を深めることを目標に、11月17日㈰、平取町女性の集いが中央公民館で開催されました。

「笑いの健康体操（笑いヨガ）で呼吸（系）を整える」と題した講演では、笑いと呼吸の相乗効果により免疫力が上がる「笑いの体操」を参加者全員で実践し、「笑う」習慣を生活に取り入れることを笑いながら学びました。

さらに、「すずらん笑劇団」によるステージと参加者の芸能発表で、場内は笑いでつつまれ、心身ともに楽しく健康的な一日となりました。

優勝目指し 一球入魂！　全町小学生ドッジボール大会

11月16日㈯、「第13回全町小学生ドッジボール大会」が町民体育館で開催され、人気行事の一つとなっているこの大会に全町から10チーム85名が参加し、熱戦を繰り広げました。

今大会は、１～３年生の部に４チーム、４～６年生の部に６チームが参加し、リーグ戦による勝ち点制で順位を決定しました。１セット４分間の２セットマッチで試合が行われ、接戦となる試合が多く、試合終了のホイッスルが鳴る瞬間まで勝利を目指して一生懸命に戦う姿に、応援にかけつけた保護者や学校の先生方も力が入り、大きな声援を送っていました。

＜１～３年生の部＞
優　勝　２年さい強ぐんだん
準優勝　３年生最強チーム
３　位　平取ファイターズ
４　位　平小１年
　　最強じゅんこチーム

＜４～６年生の部＞
優　勝　一般人LVMAX
準優勝　ガッキー２
３　位　チーム紫雲古津
４　位　平取ドッジ
５　位　振内
６　位　ＳＳ・シールズ

令和６年度 平取町小・中学校作品展 開催

色とりどりの図画や工作等が展示されました

「ふれあいセンターびらとり」で、11月16日㈯から22日㈮までの７日間、図画・工作・書写・壁新聞など、269作品を展示し、平取町小・中学校作品展を開催しました。児童・生徒の日頃の学習成果の発表の場として、毎年多くの作品が出品されました。

作品づくりを通して、創造力、表現力、集中力などを高め、自分の感じたことや考えを形にすることの楽しさを味わうことができます。また、町内各学校のさまざまな作品を鑑賞する活動を通して、自分の見方や感じ方を広げることもできます。

期間中は200名ほどの来場者があり、子どもたちの作品を熱心に鑑賞していました。

地域のみなさんに知ってほしい

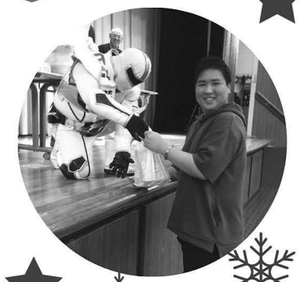
地域みらい留学のこと

町づくり住民大会

・11月30日(土)に開催された町づくり住民大会に参加しました！地域みらい留学生も移住者としてインタビューを受けました。大抽選会が行われ、地域みらい留学生も景品が当たり、ビラトレンジャーイエローから景品を笑顔で受け取りました♪

アイヌ語入門講座

・地域みらい留学生がアイヌ語入門講座に参加しました。町の方と一緒に楽しくアイヌ語を学ぶことができました。
この他にも地域みらい留学生はオンラインのアイヌ語講座（テアタランギ）や子どものアイヌ語教室に参加をしています。



各SNSでも地域みらい留学生の日常生活や
学校生活の様子を発信しています！
ぜひフォローお願いします♪
（高校魅力化コーディネーター　森山）

Instagram

Facebook

すこやかだより

保健福祉課からのお知らせ

飲酒の新常識!!

かつては、「少量の飲酒は体に良い」といわれていた時代もありました。しかし、近年の研究によると、少量の飲酒でもがんや脳卒中、高血圧などの発症リスクを高めることがわかってきました。

左の表は、日本における飲酒量と疾患の発症リスクの関係を表しています（厚生労働省「健康に配慮した飲酒に関するガイドライン」）。０ｇ以上と記載されているものは少しでも飲酒をするとリスクが上がるということを表し、少量であっても飲酒する習慣のある方の場合、全く飲まない方と比べて、高血圧や脳出血、胃がんなどを発症するリスクが高いことがわかります。

疾患別の発症リスクと飲酒量（純アルコール量）

疾患名	飲酒量（純アルコール量ｇ）	
	男性	女性
脳出血	150g/週(20g/日)	0ｇ以上
脳梗塞	300g/週(40g/日)	75g/週(11ｇ/日)
高血圧	0ｇ以上	0ｇ以上
胃がん	0ｇ以上	150g/週(20ｇ/日)
大腸がん	150g/週(20g/日)	150g/週(20ｇ/日)
食道がん	0ｇ以上	研究データなし
肝がん	450g/週(60ｇ/日)	150g/週(20ｇ/日)
前立腺がん	150g/週(20ｇ/日)	
乳がん		100g/週(14g/日)

純アルコール量

お酒の種類	量	アルコール度数	純アルコール量
ビール中瓶1本	500ml	5%	20ｇ
缶チューハイ1本	350ml	7%	20ｇ
清酒1合	180ml	15%	22ｇ
ウイスキーダブル1杯	60ml	43%	20ｇ
焼酎1合	180ml	35%	50ｇ
ワイン1杯	120ml	12%	12ｇ

健康日本21では、生活習慣病のリスクを高める飲酒量を「1日あたりの純アルコール摂取量が男性40ｇ以上、女性20ｇ以上」と定めています。これは「ここまでなら飲んで良い上限値」ではありません。少量の飲酒で顔が赤くなるなど、アルコール分解能力が低い人はお酒の影響を受けやすく、人によって影響の受けやすさが異なるため、「適量」の基準を定めるのは困難です。

体質によって、お酒の影響の受けやすさは異なりますが、お酒が強い弱いに関わらず、飲酒量が少ないほど、飲酒によるリスクは少なくなることに違いはありません。

まずは、皆さん一人ひとりがアルコールに関する問題への関心と理解を深め、自らの予防に必要な注意を払い、不適切な飲酒を減らすことが大切です。

飲酒をする際には、健康リスクを避ける飲み方を心がけましょう。

【避けるべき飲酒】

▽一時多量飲酒
▽他人への飲酒の強要等
▽不安や不眠を解消するための飲酒
▽病気等治療中の飲酒や服薬後の飲酒
▽飲酒中または飲酒後における運動
▽入浴などの体に負担のかかる行動

【健康に配慮した飲酒の仕方】

▽自らの飲酒状況等を把握する
▽あらかじめ量を決めて飲酒する
▽飲酒前または飲酒中に食事をとる
▽飲酒の合間に水を飲むなど、アルコールをゆっくり分解・吸収するようにする
▽一週間のうち、飲酒をしない日を設ける

長期間にわたって、大量のアルコールを摂取し続けると、アルコールを摂取しないといられなくなる状態、つまりアルコール依存症になる危険性があります。

アルコール依存症は、脳内のアルコールに関するブレーキが壊れて、「日々どうしても飲まずにいられない」「量のコントロールができない」「健康や生活に支障が現われてもやめられない」といった状態に陥ります。

【アルコール依存症のサイン】

▽お酒に強くなり、量が増加していく
▽ほろ酔いでは飲んだ気がしなくなる
▽飲んで記憶を失うようになる
▽飲むことを優先した生活になる

一つでも思い当たる方は、アルコール依存症の初期段階にいる可能性があります。ひとりで悩まず、保健師や医療機関に相談してください。

【お問い合わせ】
保健福祉課 保健推進係
（ふれあいセンターびらとり）
☎４-６１１２

図書館へいこう

○開館時間　火～金曜日　９：３０　～　１８：００
　　土・日曜日　９：３０　～　１７：００
○休 館 日　月曜日・祝日
　※月曜日が祝日の場合は、
　その翌日も休館

図書館カレンダー

1月

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

新着図書

★他にもあります
★オンラインで検索できます

【一般書（小説・エッセイ）】
『人魚が逃げた』／青山美智子
『最近』／小山田浩子
『書楼弔堂 霜夜』／京極夏彦
『青い絵本』／桜木紫乃
『サーペントの凱旋』／知念実希人
『眠れない夜のために』／千早茜
『雫』／寺地はるな
『朝比奈さんと秘密の相棒』／東川篤哉
『ドヴォルザークに染まるころ』／町田そのこ
『いつかの朔日』／村木嵐
『過去の握力×未来の浮力』／ジェーン・スー
『みらいめがね３』／荻上チキ

【児童書】
『ぼくの中にある光』／カチャ・ベーレン
『あそび室の日曜日』／村上しいこ
『ふゆのおばけずかん　ばつひので』／斉藤洋
『アイヌ民族33のニュース』／北原モコットゥナシ
『ＳＮＳ時代のメディアリテラシー』／山脇岳志

【一般書（その他）】
『ルポ学校がつまらない』／小林美希
『この一冊で安心葬儀とお墓のハンドブック』／吉川美津子
『図解いちばんわかりやすい脊柱管狭窄症の治し方』／田村睦弘
『100年骨』／斎藤充
『観葉植物を枯らさないための本』／ヴェロニカ・ピアレス
『いちばんよくわかる！柴犬の飼い方・暮らし方』／青沼陽子
『地図なき山　日高山脈49日漂泊行』／角幡唯介
『僕は猛禽類のお医者さん』／齊藤慶

【絵本】
『あ、あな！』／チョー ヒカル
『おきがえパンダ』／海野あした
『おはしをじょうずにもてるかな』／深見春夫
『空はみんなのもの』／ジャンニ・ロダーリ文　荒井良二・絵
『はたらく図書館』／吉田亮人・写真　矢萩多聞・文
『森でつながるエゾモモンガ』／原田佳実

年末年始の休館

◇12月30日（月）～１月６日（月）
期間中は休館となります。
資料の返却については、次のとおりです。

■図書と雑誌
…返却ポストに入れてください。
（ふれあいセンター正面玄関）

■ＣＤとＤＶＤ
…１月７日（火）以降の開館時間中に図書館カウンターに返却してください。

※破損の恐れがありますので、返却ポストには入れないでください。

布のえほん貸出できます

「ふれあいサークル」が制作した布のえほんやおもちゃなど、そのほとんどを図書館に寄贈していただいています。

図書館のキッズコーナーに展示していますので、実際に触れて楽しんでみてください。

布のえほんは、サークル・保育所などの団体のほか、個人でも貸出ができます。

※布のおもちゃの貸出はしていませんので、キッズコーナーで楽しんでください。
※展示作品の入れ替えもあります。

★★★　図書ワゴン運行予定　★★★

■次回　**１月９日（木）**

【振内地区】　10：00～12：00　山の駅ほろしり館
【貫気別地区】　14：00～16：00　貫気別生活館

■貸出期間は次回の巡回日までになります。
■毎月第一木曜日に運行します。
■貫気別支所・振内支所（青少年会館）で返却できます。

【お問い合わせ】平取町立図書館
□ 電　話　01457-4-6666
□ ＦＡＸ　01457-4-6871
□ メール　risu2@guitar.ocn.ne.jp
■Ｗｅｂ　■携帯

広報
びらとり
12月号

第740号　令和6年12月27日　発行

今月のワンショット

平取ダム周辺 自然体験会
　平取ダム管理所周辺に整備されているフットパスで道産子馬の乗馬体験が行われ、雪景色をながめながら、親子連れで冬の自然を楽しみました。

楢の実俳句会

喉越しにつるりと通る酢牡蠣かな
初参り秋に出た熊寝ただろか
初詣八十路の友と弁財天
元旦に初の曾孫はお箸染め
木枯らしに急かされている七十路なり
狭庭の隅にひっそり返り花
終業のサイレン流れ暮早し
初空に向い飛び立て我が心
猫が呼びそぞろな我も日向ぼこ
初霜や今日から冬と覚悟して
からからと枯葉が遊ぶ芝の上

内海　綾子
遠藤　紫光
加藤えい子
川上八重子
熊谷　厚子
千葉　俊子
長野　新一
野口勢津子
古久保李莉
道政サツ子
渡辺　正子

まちの人口と世帯数

		（前月比）
人　口	4,447　人	（△ 9 人）
男	2,195　人	（△ 6 人）
女	2,252　人	（△ 3 人）
世帯数	2,386　世帯	（△ 10 世帯）

※令和６年 11 月末現在の住民基本台帳による

ふるさと納税寄附

令和６年11 月寄附件数・寄附金額
1,712 件　36,536,000 円
令和６年度累計
（4 月 1 日～11 月30 日まで）
6,721 件 142,167,400 円

役場関係
電話番号

平取町役場 総務課（代表）	☎ 2-2221
まちづくり課	☎ 2-2222
アイヌ施策推進課	☎ 2-2341
観光商工課	☎ 3-7703
産業課	☎ 2-2223
農業委員会・土地改良区	☎ 2-2695
税務課	☎ 2-2224
出納室	☎ 2-2225
建設水道課	☎ 2-2226
議会事務局	☎ 2-2227
ふれあいセンターびらとり	☎ 4-6111
町民課	☎ 4-6113
保健福祉課 保健推進係・子育て支援係	☎ 4-6112
介護支援係・介護保険係	☎ 4-6114
児童館	☎ 2-3026
子ども発達支援センター	☎ 2-3400
地域包括支援センター「ほほえみ」	☎ 2-3700
平取町教育委員会 生涯学習課	☎ 2-2619
中央公民館	☎ 2-2619
町民体育館	☎ 2-2749
二風谷アイヌ文化博物館	☎ 2-2892
沙流川歴史館	☎ 2-4085
図書館	☎ 4-6666
役場振内支所	☎ 3-3211
役場貫気別支所	☎ 5-5204
平取町国民健康保険病院	☎ 2-2201
平取町社会福祉協議会	☎ 4-2267
平取町外２町衛生施設組合	☎ 2-2024
平取消防署	☎ 2-2361

ホームページ
QR コード

発行／発行者　平取町／編集　観光商工課広報広聴係　〒 055-0192 北海道沙流郡平取町本町 28 番地　☎ 01457-3-7703
インターネットでもご覧いただけます◇平取町ホームページ　https://www.town.biratori.hokkaido.jp